

～病院長挨拶～

市立三次中央病院
病院長 立本直邦

令和 7(2025)年 4 月 1 日付けで 第 9 代 市立三次中央病院 病院長を拝命いたしました
立本直邦^{たつもとなおくに} です。私は、平成 11(1999)年 4 月に外科診療医として、当院に赴任し、外科医長、診療部長、副院長を経験させていただき、26 年目の春を迎えるにあたり、たいへんな重責を担わせていただくことになりました。

当院は、昭和 27(1952)年 6 月、当時の双三郡の 17 町村により設立された双三中央病院組合によって開設され、その後、昭和 44(1969)年 5 月に全面改築(建て替え)、更には、平成 6(1994)年 9 月に現在地に移転新築を行い、現在に至っております。病院名称も、開設時は『双三中央病院』、移転新築時から『公立三次中央病院』、そして、平成 16(2004)年の平成の市町村合併時から現在の『市立三次中央病院』と 3 度の変遷を経ております。診療科・病床数は、開設時;6 科・32 床の診療所とあまり変わらない規模の病院から、改築時; 12 科・275 床、移転新築時; 18 科・350 床、そして現在は、標榜診療科; 30 科、医師数; 88 名、非常勤職員を含め総職員数; 587 名(看護部; 309 名)に及んでいます。県北唯一の総合病院、『県北の砦』として、1 次～2.5 次救急を中心に対応すべく、まさに 365 日、24 時間の体制で一丸となって診療にあっております。まさに、地域に根ざした、地域密着型の病院、地域の皆さまにとっては“我が町の病院”です。

令和 2(2020)年からのコロナ禍に伴う人員(特に看護師)不足に伴い、一病棟(包括ケア病棟)の閉鎖を余儀なくされておりますが、そこに外来-化学療法センターを拡充移転、また外来-内視鏡センターを改修拡充すること等々で、限られた医療資源の有効活用を図って、何とか対応いたしております。

今後の病院運営にあたっては、

- ① 地域の皆さまに安心、安全な医療の提供を継続すること
- ② 健全な病院運営を継続すること
- ③ 病院建て替え計画の遂行

が近々の最低限の責務と考えております。

また、①②を実践するためには、“良い医療人”を育てることに尽きると考えます。“良い医療人”とはもちろん定義があるわけではありませんし、答えるのは難しいことかも知れません。個人的には、

- (1) 各医療分野でそれぞれの知識・技術を持っている
- (2) 人間性=優しさ・思いやり がある
- (3) 正直な言動・対応が出来る

と思っております。

しかし“良い医療人”である前に、社会人として当たり前のこと=挨拶を交わす、困っている人には手を差し伸べる、ゴミが落ちていれば拾ってゴミ箱に入れる…等々が当たり前に出来る人であるべきです。そのような人材を育ていくのも医療人としての責務と考えております。

病院の基本理念である『私たちは、地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指します。』にいつも立ち返って参ります。

病院も柔軟な変化を求められる時代になっております。課題も山積であることは重々承知いたしております。また私一人の微力では出来ることには限りがあります。オール市立三次中央病院職員で立ち向かって参る覚悟でおりますが、皆さまの応援も大きな力ですので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。そのことを改めてお願いして就任の挨拶にさせていただきます。

(令和 7(2025)年 4 月吉日)